『Fate/scape the world』《〜〜正義の味方の異世界放浪記〜〜》

『正義の味方』《エクス》

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
『Ｆａｔｅ／ｓｃａｐｅ　ｔｈｅ　ｗｏｒｌｄ』《～～正義の味方の異世界放浪記～～》

【Ｎコード】
Ｎ２０６７Ｔ

【作者名】
『正義の味方』《エクス》

【あらすじ】
衛宮士郎は協会によって死にかけていた。
そこへ遠坂凛たちにより、異世界へと飛ばされる・・・
「サヨナラ士郎・・・平行世界でも大切なものを守ってね」
果たして、衛宮士郎（正義の味方）はネギま！（異世界）で何を起こすのか・・・
士郎は大切な物を見つけ、守ることが出来るのか。
そして士郎は《運命》に翻弄されていく（・・・・）

この小説は『Ｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔ』と『ネギま！』のクロスオーバー作品です。
なお、作者はまだ《中３》なので他の作者さん達に比べれば、未熟者です。
しかも今回が初小説なので、さらに駄文です。
「別に気にしない！」という人はどうぞお読み下さい＞（｜　｜）＜
（最初は、士郎少し強め→強過ぎ→反則＜チート＞くらいにすると思います（。－｜－。）
この小説では、「Ｆａｔｅなど（月姫とか）・ネギま！」のほぼ全てのキャラクターが出ます。
矛盾なども起こると思いますので、何か見つけたら報告してくれれば対処します！

プロローグ（前書き）

衛宮士郎は協会によって死にかけていた。
そこへ遠坂凛たちにより、異世界へと飛ばされる・・・
果たして衛宮士郎（正義の味方）はネギま！（異世界）で何を起こすのか・・・

この小説は『Ｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔ』と『ネギま！』のクロスオーバー作品です。
なお、作者は《中３》なので、他の作者さん達より未熟者です。
「別に気にしない！」という人だけ読むのをお勧めします

《あとがきをよく読んで下さい！すこしお知らせありますので・・・》

プロローグ

I am the bone of my sword
『体は剣でできている』
Steel is my body, and fire is my blood
『血潮は鉄で心は硝子』
I have created over a thousand blades.
『幾たびの戦場を越えて不敗』
Unaware of loss. Nor aware of gain
『ただ一度の敗走もなく』『ただ一度の勝利もなし』
With stood pain to create weapons.
『担い手はここに独り』
waiting for one's arrival
『剣の丘で鉄を撃つ』
I have no regrets. This is the only path
『ならば、我が生涯に意味は不要ず』
ーーーMy whole life was "Unlimited Blade Works"
『ーーーこの体は、無限の剣で出来ていた』

◆◇ーーーーーーーーーー◇◆

ふと、気がついた。

何か長い、長い夢のような物を見ていた気がする……
ただ、それが本当に夢なのか、どんな内容だったのか、全く分からない。
一度忘れてしまうと、思い出すことは至難の技なので素直に諦める。
取りあえず横たわったままの体を起こそうとして気づいた。
自分の体がどんな状態なのか。
この状態になる前に何があったのかを。
俺の、衛宮士郎（……）の有り様を。

「……そっか。俺、協会に追われていたんだ。」

体の至る所から魔剣・名剣が突き出てきている。
どうりで何か視点が上に向いていると思ったら……
だけど、後悔なんてしていない。
俺は、アイツ（・・・・）とは違う道を進んだ。
多くの人を救い、大切な物も守れた。
ここで終わりならもう、満足も出来るさ…

《な～にいっているのよ、士郎。そんな事させるわけないでしょ♪》

懐かしい人の声を聴いた。そして、裂けた空間から赤い悪m・・・
じゃなくて遠坂凛が出てきた・・・

「遠坂?！お前もう宝石剣をマスターしてたのか……」

「なぁに?私には宝石剣はまだ完全に使えないと思ってた訳・・・?」ピキピキ

「すみません！そういう意味ではありませんっ！…；」

「……まあいいわ、本題に入るわよ。率直に言うわ。士郎、あなたは異世界に飛んでもらう。異世界とはいっても魔法使いが沢山いる平行世界にね。」

……なんでさ。

プロローグ（後書き）

まずはこの小説を読んでくれた皆様、有難うございます。
私はこれが初小説なので、読んでくれると嬉しいです（。ー｜ー。）
皆様のアドバイスや感想をくれるともっと嬉しいです（。ー｜ー。）
この小説をドンドン豊かにしていきたいので！

（でも、「駄文過ぎ、もっと勉強しろｋｓ」とかは流石に傷つくので酷すぎるコメントは少し止めて下さい（〃・ω・；〃）

そして、皆様に実は少し悪いお知らせがありまして・・・
私は《Ｆａｔｅ》は原作もやっていて、ほとんど知っていますが、
『ネギま！』はアニメと小説でしか見たことないのです・・・ＯＴＬ
なので、チョコチョコ原作本買いに行こうと思うのですが……
今は原作本ないので、魔法の詠唱よく分かりません（Ｔ＾Ｔ）
ああ・・・、よくこんな状態で小説書こうと思ったな俺……
何か、このことについてアドバイス下さい！何でもいいので！
追伸、《私はＰＳ３で小説を書いているのですが、やっぱりＰＣの方いいのですかね？》
《誰かＰＣとＰＳ３の利点とか違いを教えて下さいｏｒｚ》

プロローグ・2（前書き）

この小説は中3が書いている初小説なので、駄文です。
もしそういう物が嫌な人達は戻るキーを押すのをお勧めします。
「別に気にしないぜ☆」という人はどうぞ～
さて、頑張って書いていこうかーーーー！

プロローグ・2

遠坂はそういうと少し不機嫌そうにもう一度云う。

「だ・か・ら、平行世界だって。このままだと確実に士郎死ぬし。だから平行世界に送ったげる♪あ、大丈夫よ。桜やイリヤ、私達もそのうち往くから。」

「・・・ゑ《え》？……マジか？；」

「当然！これはもう決定事項よ♪まあ餞別はつけてあげるし、色々とサプライズを仕掛けてあるから。（きっと驚くわよ・・・☆」

「い、いやぁ・・・あんまり期待したくもない『潰すわよ』・・・すまん；」

遠坂に本気だされたら多分負けはしないけど・・・

ーーーーやめよ。何てことを想像してるんだ。俺は……

ーーーーーーーーーーーーーーーーバチィッ！

「ゴーーーーーーフっ！！」

・・・魔術回路が焼き切れ（・・・・・・・・）、吐血する。

「・・・もう限界の要ね。じゃあ、そろそろ飛ばすわよ。しばらくは会えなくなるから、言いたい事があるなら今のうちにいっておきなさい。」

「っ……ああ。遠坂、又会う時までまたな。イリヤや桜たちにもそう伝えてくれ。家とか何とかしてするから、又一緒に住もうって！・・・頼むな、遠坂。」

「オーケー。ちゃんと伝えておくわ。士郎も一応集中しといて。あんたが初の平行世界の移動者だから♪」

そういうと遠坂は宝石剣に魔力を集中させていく。

「はいはい。集中しますよ・・・って！ちょっと待て遠坂！！お前、今初めてって？！」

イヤイヤイヤイヤ！今何か聞き捨てならんことを聴いた！

「何いってんのよ、当たり前じゃない。平行世界行ったのなんて宝石翁くらいしかいないんだから。」

・・・あ、そうですか。あの爺しか結局渡れなかったのか・・・

でもな～、何か嫌な予感するんダヨナ・・・；

「よし、充填完了……いくわよ！『世界渡りし次元の剣』《宝石剣

》！！」

その真名解放と共に次元の裂け目ができた。
そして士郎は次元の穴に飲み込まれていった・・・

『サヨナラ、士郎。正義の味方もいいけど平行世界でも大切な物を見つけなさい。また今みたいな状態になってたら、承知しないからね・・・・。』

飲み込まれる定か、遠坂の最後の声が聴こえた・・・

「・・・ああ、そんなことはさせない。俺は今度もやり遂げてみせるさ。」

もう、俺は《正義の味方》を辞めることは出来ないだろう。
だけど、それでも。それでも、俺はーーーーーーー

「この道は、間違っていないって信じているーーーー！」

ーーーーーーーー遠く響く剣の音。
それを乗り越え、衛宮士郎はまた、正義の味方を貫いていく・・・・。

プロローグ・2（後書き）

私の初小説を見ていただいた皆様、ありがとうございます（。―|―。）

（。ぺ）ウーン、やっぱりＰＣの方がいいのかな・・・？

文字数ＰＳ３よりもっと書けるらしいし・・・

プロローグのとこに書いた物の返信によって考えよう！

では、改めまして。読んでくれた皆様、ありがとうございました（。―|―。）

正義の味方、無事（？）異世界へ到着しました。（前書き）

この小説は【中3】が書いている、駄文初小説です。
「別に気にしないぜ☆」という人だけ読むのをお勧めします。

今回は半オリジナル？宝具がでます～！

正義の味方、無事（？）異世界へ到着しました。

ーーーーー月や星に照らされた夜空の中、
何かが裂ける音と共に空が（・・・・・）割れた（・・・・・）

「……ん？着いたのか？？」

次元の裂け目から出てみると、そこは・・・
ーーーーーーー星に輝く夜空の真っ只中であった。

「・・・・・ってぇ！！、なんでさあああぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」

嫌な予感の原因はこれかぁぁぁぁ？！
遠坂家直伝の『うっかり』は治りはしないのか…；
……パニクっている内にもうだいぶ堕ちていたみたいだ。
俺はこのまま何もできずに堕ちていくしかないのか・・・

ーーーーーー却下、手段ならば始めから持っている
・・・難しい筈はない。
不可能な事でもない。
もとよりこの身は、
ただそれだけに特化した魔術回路ーーーーーーーー！

「『投影（トレース）』『開始（オン）』っっ！！」

俺特有の始動キーを言い、何時も身に纏っている赤い外套を幻想する。
異世界にきて心配していたが、投影は特に問題なく使えるみたいだな・・・

ホッとしたのも束の間、落下スピードはドンドン上がっていく。
大きい弓を投影し、体を弓と弦で囲む。
弦を掴みながらまた布を投影し、思いっきり広げながら弓の両端と融合させる。
これにより、即席のパラシュートのようになるが……

ーーーーーーーーーーーバサササッ・・・

・・・ヤッパリ無理デスヨネー！！
即席パラシュートは落下スピードに負けて、外套が吹き飛んでいった。

「……今はまだ使いたくはなかったんだけどなぁ。まあ、仕方ないか。」

どうせ後で体を調べるんだけど、今試しても問題は無いだろう。
魔力を集中させてゆきーーーーーーーーーーーーーーーーーあの馬鹿巨大い【でかい】剣を投影し、真名を解放するーーーーーーー！

「ーーーーーーーーーーー『天空浮かびし放浪の剣』《ホバーブレイド》！」

魔力を風邪に変え、宙に浮かんだ剣に着地する。
あれ・・・、あんまり魔力を消費してないな・・・。
ともかく、一応これで一件落着だな…。

「はあ・・・異世界に着いてからすぐに大変な目に合うとはなぁ・・・・」

後で遠坂には仕返ししてやる・・・！！
でも、あいつは遠坂家の中で一番「うっかり」が多いんじゃないんだろうか？
ある意味そんな所も天才だな・・・。
ま、遠坂のダメな所はそこくらいだし・・・。

遠坂への愚痴を言っている内に木々が生い茂っている地上に着いた。
こんなに木々が連なっているなら『ホバーブレイド』を使った方が早いのだが、何も分からない今は魔力は温存しておいた方が良いだろう。

「偶には、歩いていくのもいいよな。」

そのまま俺は深い、とても深い森の中に誘われるように入っていった…
想えば、このとき気づくべきだった・・・。【この森の広大さに】

「……」

ーーーー歩く、歩く、歩く

「……」

ーーーーーー歩く、歩く、歩く、歩く

「……」

ーーーーーーーー歩く、歩く、歩く、歩く、歩く、歩く、歩く、歩く、歩く

「……迷った。」

何でだろう。どうして。何故俺はこんなことになっているんだ・・・

orz

《考えろ、衛宮士郎！！お前ができることはそれだけだ！！・・・

（クッ・・・）

なーんかどこぞの弓の英雄に愚痴られた気がしたけど気にしない！

ーーーーーーーーわけにはいかずどうしてこうなったか考えてみる。

あれは、確か・・・

◆◇ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー◇◆

「……案外広い森だな。」

空から見たときも大分広いと思ったが、ここまで広いとは……。

何が起きるかわからないからな・・・

今の内に自分の体を調べておくか。

「『同調開始』《トレース・オン》……」

身体年齢　１０歳、身長＆ａｍｐ；体重　それに伴い低下。

身体能力　元の世界のころと同等

魔術回路　２７本→６４本に上昇、正常稼動中。

魔力量　大幅に上昇

固有結界　『無限の剣製』《アンリミテッド・ブレイドワークス》

使用可能

『全て遠き理想郷』《アヴァロン》　正常稼動中

肉体　損傷なし、ただし身長は１２０ｃｍ程に低下。体重は３０ｋｇ程。

装備品　いつもの赤い外套から→魔力変換の効果がある『魔換の指輪』を追加。

マル秘　？？？？？？？？？？？？？

マル秘２　？？？？？？？？？？？

マル秘３　？？？？？？？？？？

マル秘の所は遠坂　凛などにより新しく追加された能力。現時点ではこの程度しか分からない。

他にも隠された能力などが沢山ある模様。

「うん？ーーーーーナンデスト？；」

有り得ないほどデタラメ（チート）な自分の体に突っ込む。

ーーーーーー何このチート？！どこの某アニメだよ！？

「……うん、諦めよう。どうせこんなことになると思ったりもしたし」

ククク、あの『赤い悪魔』に付き合っていると、これ位で驚いているとこちらの精神が持たないのだよ・・・！

呪いのガンド撃ち喧嘩とか、毎度毎度事あるごとに問題起こして・・・・大変だったのデスヨ！！

……取り敢えず落ち着こう。イヤーな事を思い出さないように心の奥に締まっておく。

「それで……っと、まあこのまま進んでもどっかにゃ辿り着くだろう」

そのまま、また俺は進んでいったんだ。遠坂達を愚痴りながら。

◇◆ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー◆◇

「・・・あちゃー。俺としたことが・・・油断していたなぁ。」

仕方ないか・・・、ここまできたら適当に進もう・・・。

しっかし、これだけ深いとこまで来るとヤッパリ暗くて少し見にくいな・・・

俺もアーチャーの様に眼はいいんだがなぁ……

流石に暗視ができたら最強過ぎだよな・・・。

ーーーーーーーーーーーーーーーーキンッ！

「ーーーーーーーえ？」

今の音は、剣裁ーーーーーーー？

それを確認すると共に、瞬時に思考を切り替える。

眼を強化し、弾丸の様に音のした方へ走り出す。

一体、何が起きているんだーーーーーーーーーーーーーーー

ーーーーー森の中に、月の光で明るい開けた場所があった。

「ーーーーーー見えた！あれは・・・鬼と、女の子！？」

何故あんな小さい女の子が鬼の様な怪物に囲まれてるんだ……？
いや、そんなことはどうでもいい！
あの状況を見る限り、女の子が鬼に襲われているのだろう。
ーーーーーーアレ？その割には鬼が少し減ってるヨウナ……。

ーーーーーーーーーースルーしよう、ウン。あんな小さい女の子が

鬼を少しでも倒すなんてないはず……。
刀を持っているとはいえ、まだ子供。直に追いつめられるだろう。
早くあの子を助けないと……！！

ーーーーーーーーー鬼の剣が少女の刀を弾き飛ばした。

「っ！クソッ、間に合うか……！」

即時に弓と矢を投影し、走りながら狙いを定める。
先に言おう。弓というのは《当たると思えば外れることは皆無であると。》
故にーーーーーーーーーーーーー
衛宮士郎が当たると思えば、それを外すことなど有り得ないーーーーー！

ーーーーー鬼に矢が当たり（・・・・・）、牽制の為に次の矢を投影する。

「・・・ｌ　ａｍ　ｔｈｅ　ｂｏｎｅ　ｏｆ　ｍｙ　ｓｗｏｒｄ
……《・・・我が骨子は、捻れ狂う……》」
矢に魔力を溜め込み、一気に解放する！！
「『稲妻纏う《カラド》』、『硬き剣（ボルグ）』！！」
矢が先頭より後ろにいる鬼に着弾するのをみると共に、

ーーーーーー『壊れた幻想（ブロークンファンタズム）』

内包した魔力で爆発した。・・・

爆発の影響で出た煙に気を取られている内に移動を開始する。

ーーーー驚いて何か愚痴っている女の子達を隔てる様に、鬼の前に立ちふさがる。

「そこまでだ。こんな闘い（・・・・・）は終わらせて貰おう。」

さあ、新たな闘いを始めよう。この身は、「正義の味方」なのだから……。

ーーーーーここに、剣を持った幼い少女を守る正義の味方と、
何者かに召喚された鬼達との、
・・・・・・・一方的な闘い【暴力】が始まる。

正義の味方、無事（？）異世界へ到着しました。（後書き）

見てくれた読者の皆様、ありがとうございます！
今回は長めでした～（それでも３０００文字くらいしか書いてない・・・ＯＴＬ
コメントなどもありがとうございます！
これからも精進していきます！！

剣を持つ少女の絶対なる意志《理想》　前編（前書き）

まずは読者の皆様に謝罪を。
『更新が遅れてしまい、申し訳ありませんでした！！』
詳しい理由は後書きに書いてあります（”・ω・；”）
今はＰＳ３なので、文章も短いです。
何卒、ご了承下さい。

剣を持つ少女の絶対なる意志《理想》　前編

ーーーーーーこのちゃんは先に逃げてて！ウチがなんとか、押し留めるから……

ーーーーーーそんなん嫌や！せっちゃんも一緒に行こう、二人でも逃げきれるはずや！

ーーーーーーー……このちゃん、ごめんっ！

ーーーーーーーーーートスンッと手刀で意識を刈り取る。

ーーーーーーぁ、せっちゃん……

「ハァハァハァ・・・っ、ハッハッハッ……」

……息絶え絶えになりながらも必死に走る

『もう限界だ、休ませろ！』

『どうせ追いつかれる、諦めろ。』

脳・腕・足。体の至る所が悲鳴を上げている。

そんなことは関係ない、今はただ走り抜けるだけーーー！

ーーーーーどれくらい走ったのだろう。
そんなことさえわからなくなっても走り続ける。

「……ハァ、ハァ、ハァ、ハァ……」

もう、いいだろうか。
流石にこれ以上は走れない。
でも、此処までくれば、なんとかーーーーーー
「おうおう！大分走ったじゃねぇか嬢ちゃんよぅ！」

「っ！！」

ーーー走りながら後ろを向いている間に、化け物が前に仁王立ちしていた。

……最悪だ。
追いつかれるとはわかっていたけど、こんなに速く来るなんて……

「……あ？何驚いてんだ嬢ちゃん。もしかして追いつかれたのにか？ゲハハハ！！そうだとしたらそいつぁ面白ぇ！俺と嬢ちゃんじゃあ、何もかも違うんだぜ？」

ーーーーーーー（お頭ーー！）

「お、あいつらも来たようだ。どうする嬢ちゃんよぅ、このままだ

と挟み撃ちだぜ？」

その通りだ。このままだと私は化け物達に挟まれて……

「ーーーーまぁ、そういうのは面倒だから止めるわ。俺の性に合わんしな。」

「……え？」

さっきの言葉を聞いて、一瞬頭が真っ白になる。

……この化け物は今何と言った？

それをみたのだろう。

化け物は鋭く睨みながら、言葉を付け足した。

「一応いっておくが逃がすわけじゃねぇ。悪いが嬢ちゃんにはここで死んでもらう。」

そういいながら、化け物は高く跳び（・・）さっきと反対の位置に着地する。

そして、初めて殺気と云う物を体験する

「ただ俺は、どうせ殺すなら正々堂々と、一撃で意識を刈り取ろうと思っただけだぁ！」

そう化け物は言いながら、得物らしき歪な形をした剣を振り下ろしてくる

ーーー酷くスローモーションに剣が近づいてくる。

私は・・・まだ、まだ死ぬわけにはいかないーーーー！！

剣を持つ少女の絶対なる意志《理想》　前編（後書き）

キリ悪いのですが、文字数制限があるので一旦切ります。

前書きと同じく、読者の皆様すみませんでした＞（｜　｜）＜
更新が遅れた理由としては３つ程あります。

１つはＰＣが壊れたこと。
小説を書いている途中でエラーが起こり、プッツンと電源が堕ちました（”・ω・；”）
電源をつけてもフリーズしたままです（×｜×；）
ＰＣについては、来週程にはデスクトップＰＣを買うつもりです。

２つめの理由は学校です
この頃は体育祭（運動会）やテストの勉強などをしていたので小説の続きがあまり浮かびませんでした。

３つめの理由は微妙ですが、思い浮かばない！です
何故か後々のことばかり頭に浮かんでしまい・・・ＯＴＬ

これらの理由が原因です（×｜×；）
本当にすみませんでした＞（｜　｜）＜

では、仕切り直して・・・
この小説を読んで頂いた皆様、ありがとうございました（。｜｜｜。）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2067t/

『Fate/scape the world』《〜〜正義の味方の異世界放浪記〜〜》

2011年6月2日21時03分発行